

News Letter vol.37 2012.3.9

スウェーデン・ウメオ市に滞在して

派遣国名：スウェーデン王国

受入機関：スウェーデン農科大学 (Sveriges lantbruksuniversitet: SLU)

派遣期間：2011.1.20～2011.3.24

2011年1月20日～3月24日の約2ヶ月間、長期型派遣事業によって、スウェーデン農科大学(Sveriges lantbruksuniversitet: SLU)に滞在しました。SLUはスウェーデン全土に4つのキャンパスを持つ国立大学で、私が滞在していたのはスウェーデン北部に位置する Umeå (ウメオ市)にあるキャンパスで、主に森林科学分野の教育、研究を行っています。ウメオ市は、人口7万5千人程度の北部地方最大の街ですが、過去の大火の経験をもとに都市開発の過程で森林と住宅地の配置を計画的に行い、中心街を除いて住宅地の中にも小さな森がたくさんあります。街路樹のほとんどが白樺(silver birch とよばれる種だと思います。)で、“白樺の市”として有名だそうです。ウメオの冬は、-30度まで下がることもあり、住居も大学も温水を利用したセントラルヒーティングが完備されていて、日本の冬よりも暖かく快適に感じました。



SLUウメオキャンパス

* * * * *

異国にも関わらず想像以上にあまりにも快適すぎ、スウェーデンの文化で良いと感じたものはたくさんあります。ここでは、大学の組織や研究者に関することに絞って列挙します。まず、博士課程の研究者やポスドクについて。スウェーデンでは、ほとんどの博士課程の研究者やポスドクが scholarship や研究プロジェクトから給与をもらっているそうです。日本とは異なり、博士課程の学生の多くが一度は企業などで働いた後に、大学に戻ってくるため、自分の関心あるテーマに合うプロジェクトに応募するという感覚だそうです。また、学生のうちから EU 圏内の学生同士の共同研究プロジェクトも多数あるそうで、EU の強みを感じました。

次に、働き方について。普通の大学は、多くの研究者が8時～17時の間に集中して仕事をし、18時にはほとんど働いている人がいません。ただ、研究者という仕事柄が意外と、夕食後に自宅で仕事をしたり、土日に仕事をしている方も見かけました。それでもやはり生活と仕事のバランスを上手にとって、生活を大切にしていた働き方をしていると感じました。



ウメオ中心街にほど近い住宅地

最後に、とても合理的なスウェーデンでは、職場のシステムも合理的でした。大学の部門共有の会議室を予約するのに、会議室予約用のメールアドレスに送信するだけで、自動的に予約ができます。職員同士のスケジュールも MS 社の Outlook 上で必要に応じて共有し、スケジュールの確認や会議の日程調整をしていました。インターネットの活用のせいか、講座付きの事務職員数も半分程度でした。また、フラットなスウェーデンでは教授や学生、事務職といった身分は関係なく、敬称なし名前で呼び合っています。身分というよりも、役割といった感じで、日本のように妙に事務職の方が遜っていたりなんてことはなく、最初は研究者なのか事務職員なのか全くわかりませんでした。フラットな関係性の中で、大いに議論して合理的な改革がうまく進むものなのだと感じました。

以上のように、学内のことだけでなく、生活面でも、日本にあったら快適だろうと思うシステムがたくさんありました。ウメオは、私が今世界で一番住みたいと都市です。是非、機会があれば訪れてみてください。